

| |
|---|
| <p>1. 主催者・共催者名 国際連合大学高等研究所</p> |
| <p>2. タイトル 都市における気候コベネフィット</p> |
| <p>3. 目的・概要 都市におけるコベネフィット（相互利益）、つまり、都市地域の持続可能な開発と気候変動対応を両立できる積極的なインパクトをどのように生み出していくかについて、インド、中国、インドネシア、日本およびブラジルの諸都市における、エネルギー、廃棄物、土地利用および交通部門の実証研究に基づき議論した。</p> |
| <p>4. アジェンダ 開会の辞（5分） 議長 ジャコブ ライナー 国際連合大学副学長 兼 国際連合大学環境・人間の安全保障研究所長 講演1（15分） 「コベネフィットアプローチに基づく都市開発：概念的および実証的な研究結果より」 国際連合大学高等研究所 副所長 兼 シニアリサーチフェロー ジョゼ A プピン デ オリベイラ 講演2（15分） 「エネルギー、交通および廃棄物部門における都市コベネフィット計画用ツールについて」 国際連合大学高等研究所 リサーチフェロー クリストファー ドール コメント（5分） コメンテーター：竹本明生 アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN） 事務局長 ディスカッションおよび質疑応答（20分）</p> |
| <p>5. 発表・議事の概要 まず、ジャコブ ライナー教授（国際連合大学副学長 兼 国際連合大学環境・人間の安全保障研究所長）より開会の辞が述べられ、当該イベントの趣旨および講演者の紹介が行われた。次に、ジョゼ A プピン デ オリベイラ博士（国際連合大学高等研究所 副所長 兼 シニアリサーチフェロー）による講演「コベネフィットアプローチに基づく都市開発：概念的および実証的な研究結果より」が行われ、環境省の資金提供により実施されてきた「コベネフィットアプローチによる都市の開発プロジェクト」の研究結果が紹介された。当該プロジェクトは、日本、中国、インド、インドネシアおよびブラジルの5カ国におけるコベネフィットについて、試験的に理解、概念化および調査研究を行うことを目的としている。引き続き、クリストファー ドール博士（国際連合大学高等研究所 リサーチフェロー）による講演「エネルギー、交通および廃棄物部門における都市コベネフィット計画用ツールについて」が行われた。ドール博士は、国連大学高等研究所が当該プ</p> |

プロジェクトのために開発中の、コベネフィットをもたらす都市開発を評価・計画するためのツールを紹介した。このツールは、政策立案者が、都市において、様々な政策介入によりもたらされる利益を定量的に評価したり、様々な政策介入オプションに必要な、主要な政策ガバナンスが何かを見出すのに有益である。

ディスカッションは、竹本明生博士（アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）事務局長）によるコメントから始まった。竹本氏は、気候変動を抑止しつつ、その他の開発目標を達成していくためには、都市地域におけるコベネフィットが重要である、と述べた。また、聴講者との質疑応答の中では、ケニアの国会議員であるチャールズ ゲニ氏とウィルブールオットェチロ博士が、ケニアに適用できる概念とツールを見出した、と述べた。また、リオデジャネイロ議会議員であるアスパシア カマルゴ博士も、ミレニアム開発目標を達成しつつ気候変動を食い止めていくことの重要性を強調していた。

6. 会場写真



プビン デ オリベイラ博士、ドール博士
およびライナー教授



ケニア国会議員のウィルブール
オットェチロ博士によるコメント



ライナー教授、竹本博士、プビン デ オリ
ベイラ博士およびドール博士